

「風景論」を超えて？ 現代の風景としてのパレスチナとともに考える

Beyond *Fukeiron*? Thinking alongside Palestine as a Contemporary Landscape



Photo Credit: Palestinian News & Information Agency (Wafa) in contract with APA images
https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/1/1d/Damage_in_Gaza_Strip_during_the_October_2023_-_32.jp



11月28日（木）18：30～20：30

国際研究館共同2 & ZOOM（字幕による情報保障あり）参加無料

Zoom参加ご希望の方は以下フォームに登録ください。

<https://docs.google.com/forms/d/1tZhetBIS5m2Gr92sYez-dSfWe77zxB9x6TJKmQQyZ9M>

菅原伸也（美術批評・理論）

コンテンポラリー・アートそしてアートと政治との関係を主な研究分野としている。最近の関心は、アートと移動性について。主な論考に、「質問する」（ART iT）での、田中功起との往復書簡（2016年4月～10月）「タニア・プルゲラ、あるいは、拡張された参加型アートの概念について」（ART RESEARCH ONLINE）がある。他には、奥村雄樹（『美術手帖』2016年8月号）やハンス・ウルリッヒ・オプリスト（Tokyo Art Beat）へのインタビューがある。最近の論考には、「現代的な、あまりに現代的な——「ユージーン・スタジオ/寒川裕人 想像の力 Part 1/3」展レビュー」（Tokyo Art Beat）や「同一化と非同一化の交錯——サンティアゴ・シエラの作品をめぐって」（『パンのパン 04下』）。

主催・問合せ 井上間従文